とっかかりはイノシシの被害対策から

■イノシシ被害に対して、住民には無力感が。

■捕獲・駆除の分野については、住民はアンタッチャブル。

■ましてや、地元で獲れるジビエや皮革については、まったく情報がない。したがって、接するチャンスもない。

一つの捕獲柵の設置から始まった

■ジビエを「自家消費」で、町内会のイベントへ提供いただく。さらに、

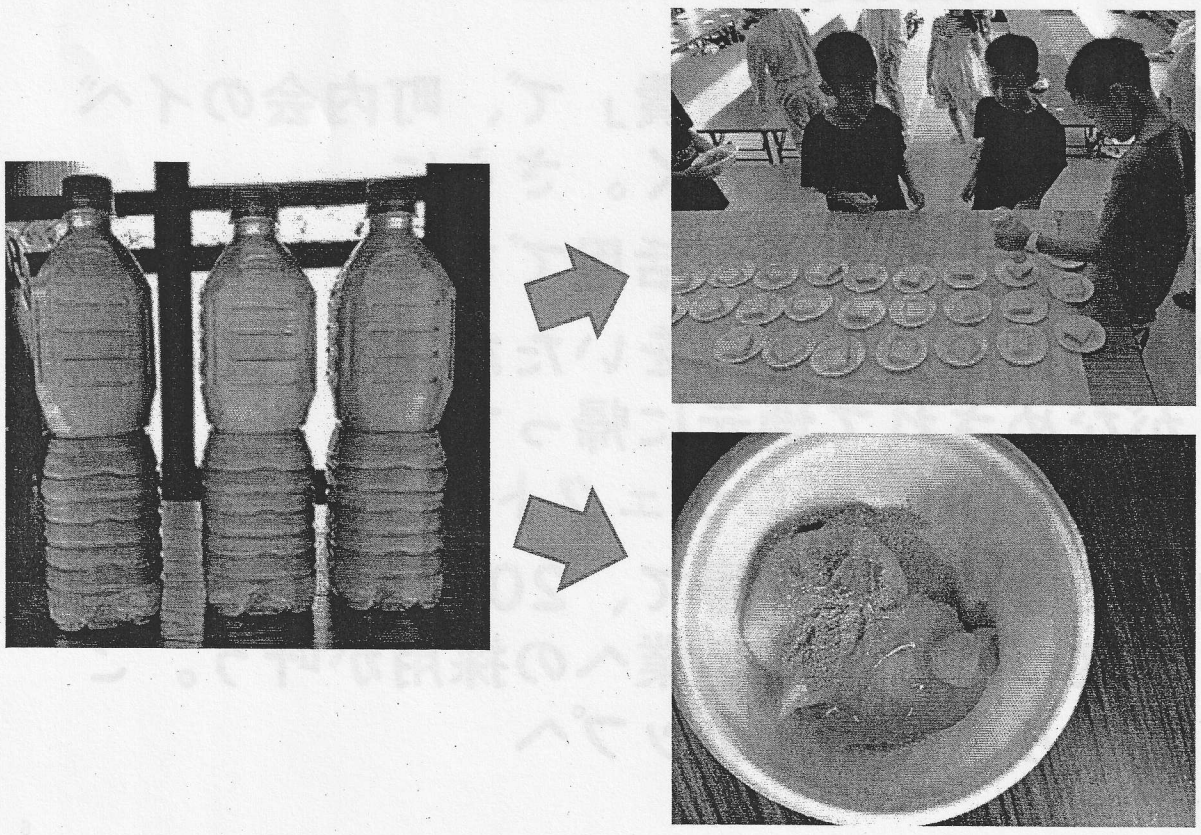
■イノシシの皮革が活用できることを知る。

■地元猟友会の協力をいただき、1枚の獣皮がなめされて地元に帰ってくる「MATAGIプロジェクト」に参画。

■新たなヒントを得て、2017年度の岡山市の区づくり推進事業への採用が叶う。ここから新たなステップへ

「産地牟佐」川ガニ（モクズガニ）の提供も

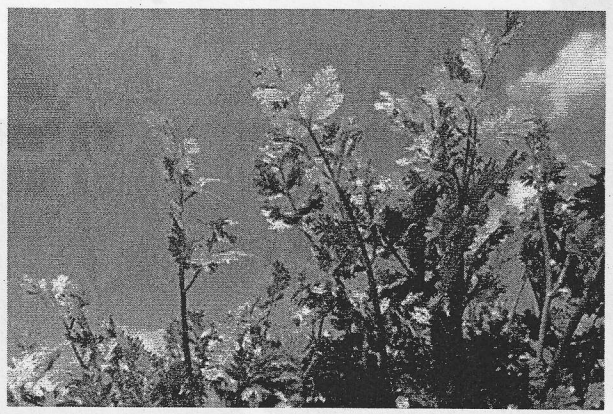
「産地牟佐」はちみつも提供

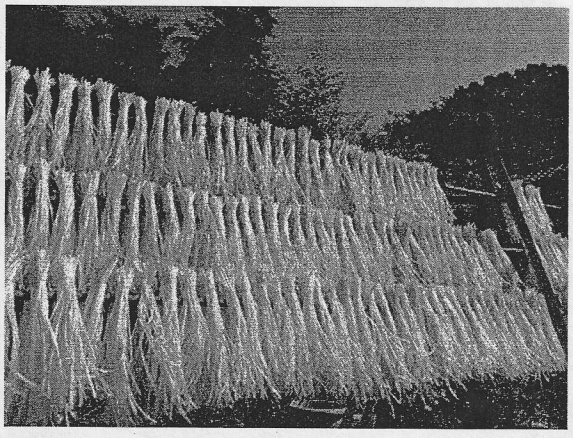


そもそもメジャー級の特産あり

☆黄ニラ：生産量日本一

☆岡山マイルドパクチー

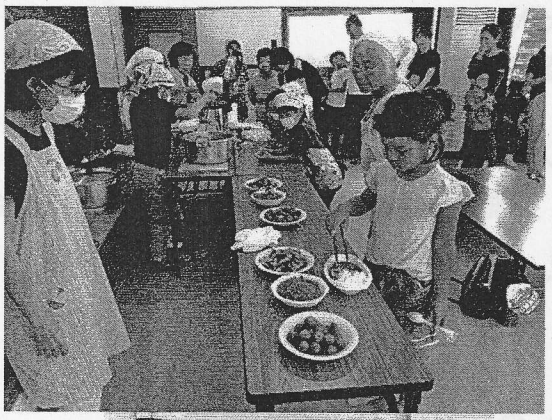


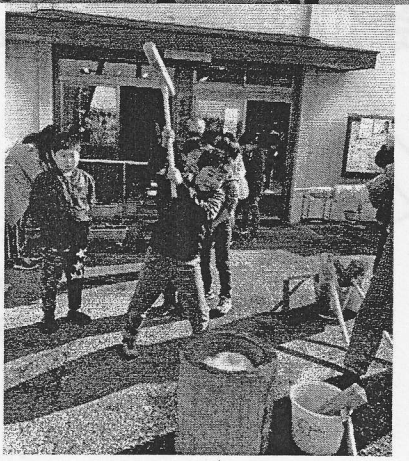


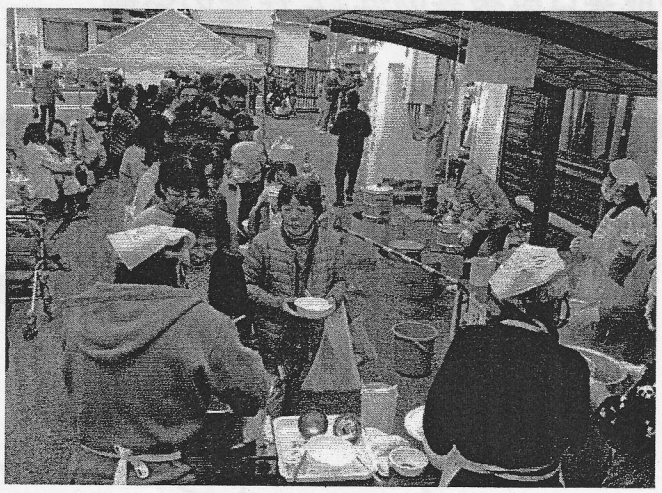
毎年開催の黄ニラふれあい祭 ➡

※今年はコロナ禍で中止です。

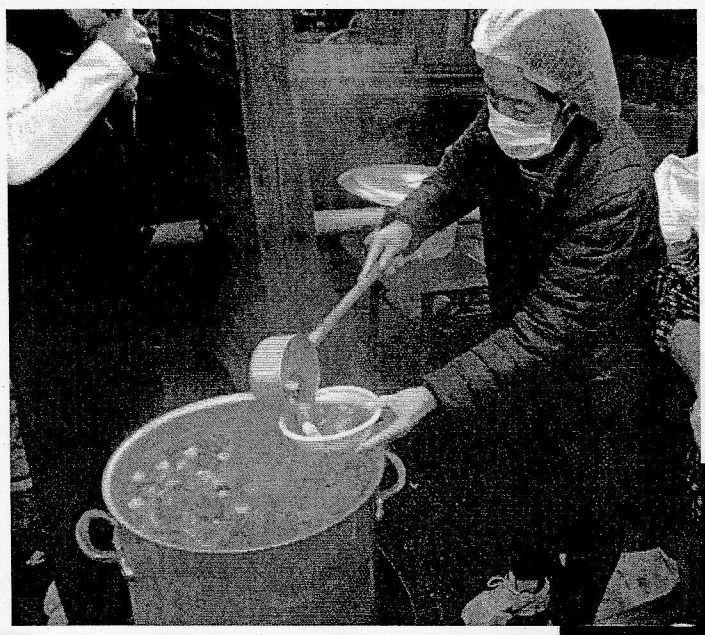
世代を超えて「産地牟佐」を「いただきます！」



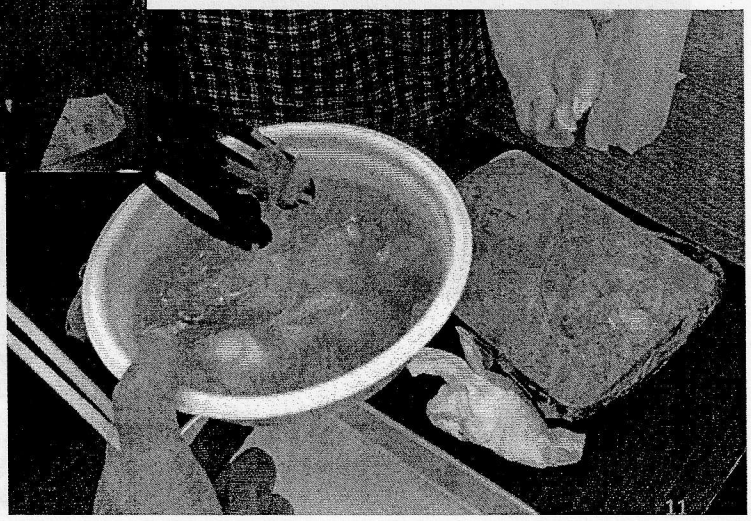




並んだ先には
川ガニのつみれ汁やししし汁が

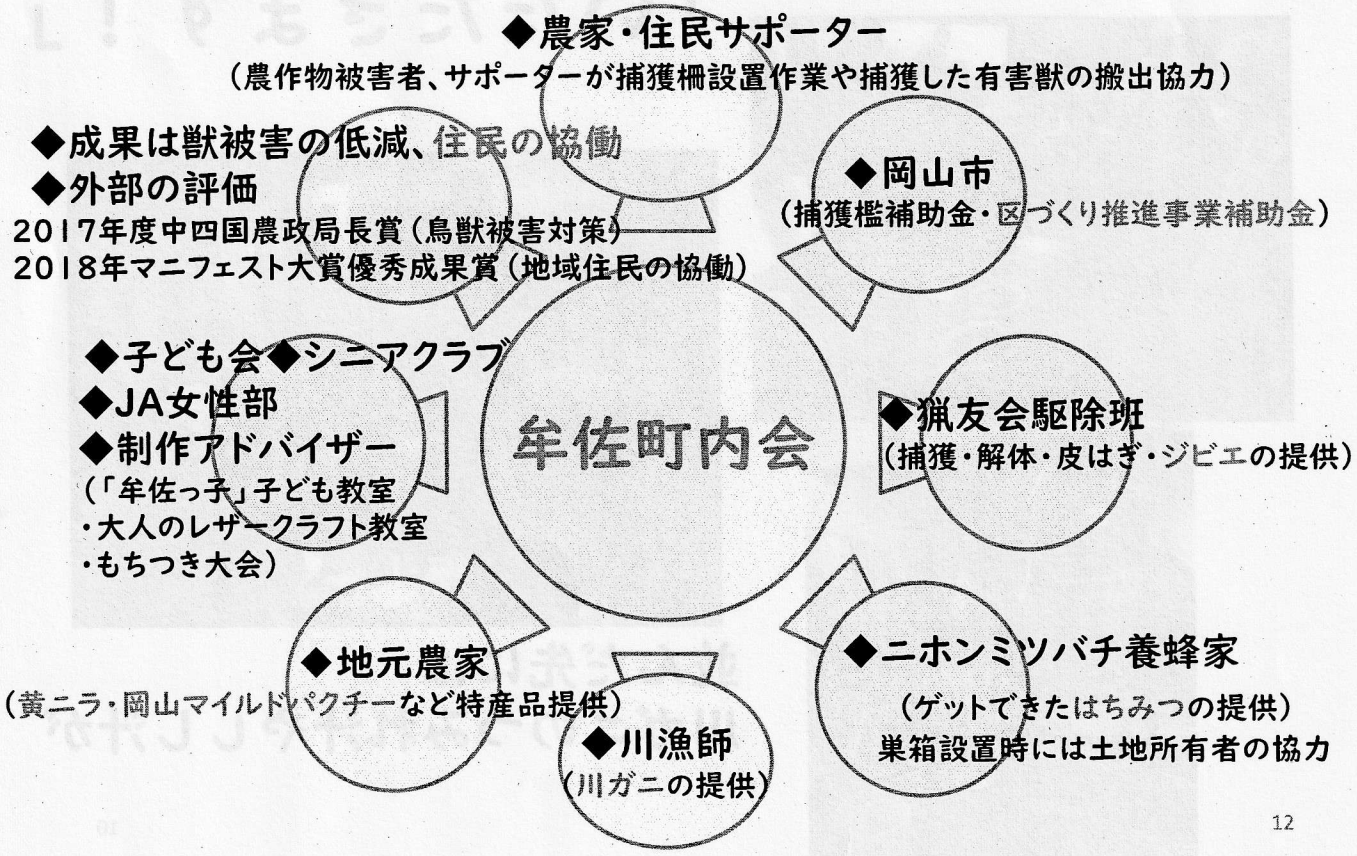


「産地牟佐」
黄ニラ入り
シシ汁



歴史を刻み
ます。

町内会がつなぐ「産地牟佐」イメージ図



結果としてどうなったのか？

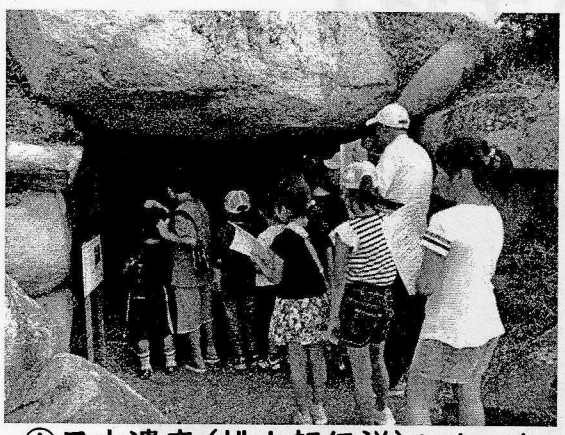
■獣被害に即対応・・・。

■住民が世代を超えて、地域に存在する自然の恵みであるジビエ、川ガニ、はちみつ、さらには、特産の黄ニラ、パクチーを味わうことができる。

■同じく、イノシシやシカの皮革（従来は廃棄されてきた。そもそも流通が少ないため高価）に手軽に接し、楽しむことができる。

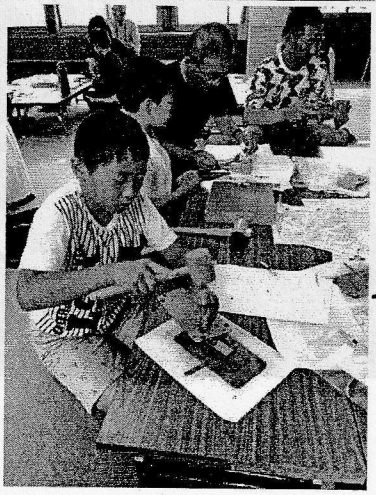
■住民が革製品の制作者となり、稼ぐ。

牟佐っ子子ども教室の一日



①日本遺産（桃太郎伝説）に入った「牟佐大塚古墳」

②大切な自然の恵みを学ぶ



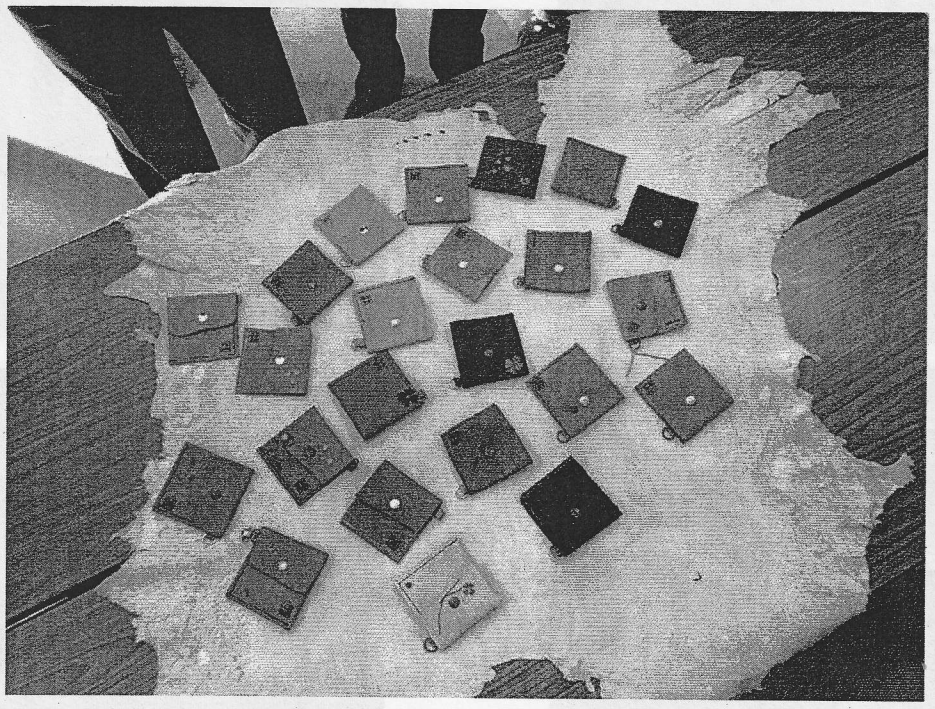
③「産地牟佐」イノシシの革でペントレーづくり

④「産地牟佐」シシ肉、野菜入りカレーライス

2017年　初めての「産地牟佐」レザークラフト教室（午前）

同　教室（午後）

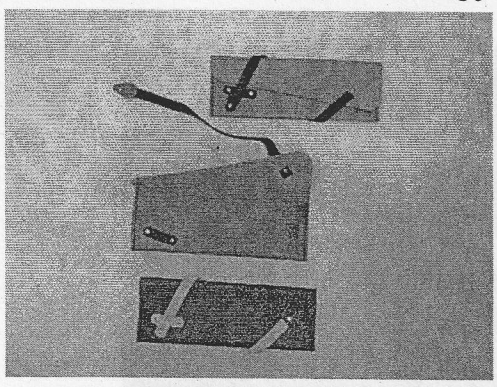
初めて作った小銭入れ



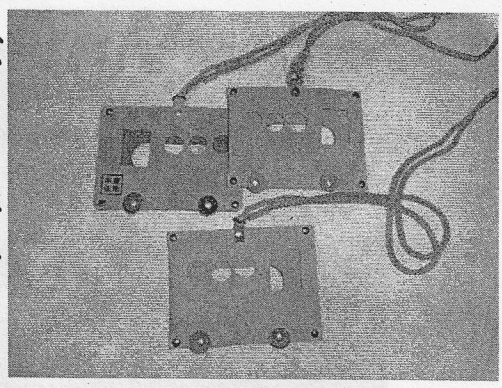
2018年　初めての試作品販売
（地元の岡山刑務所矯正展）

2019年「産地牟佐塾」を立ち上げ
加工技術向上へ

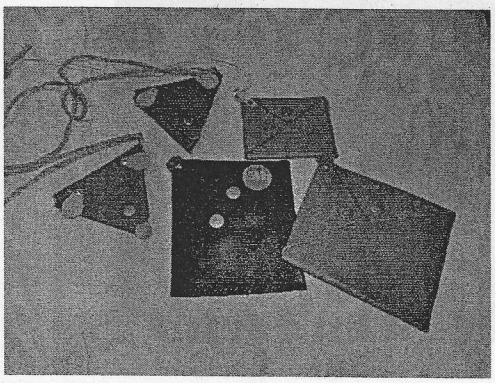
ペンケース



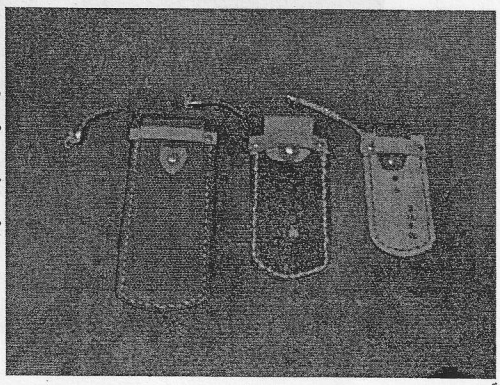
バスカードケース
（子ども向け）



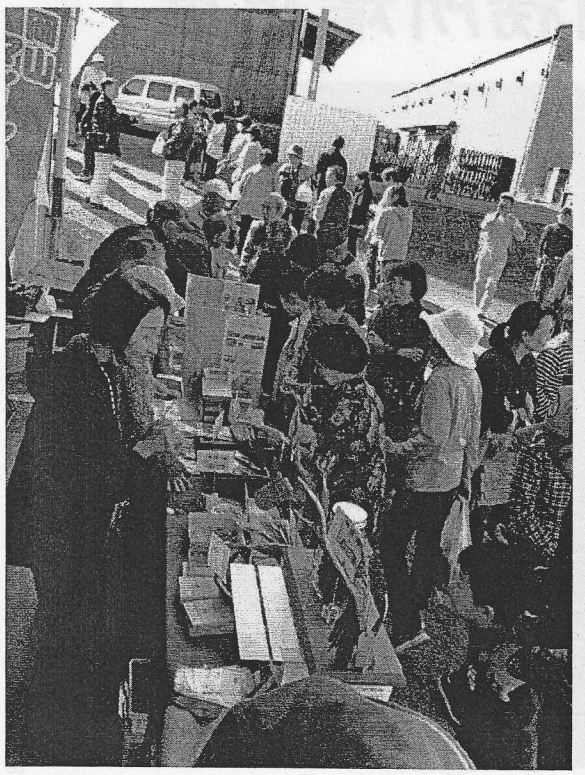
小銭入れ

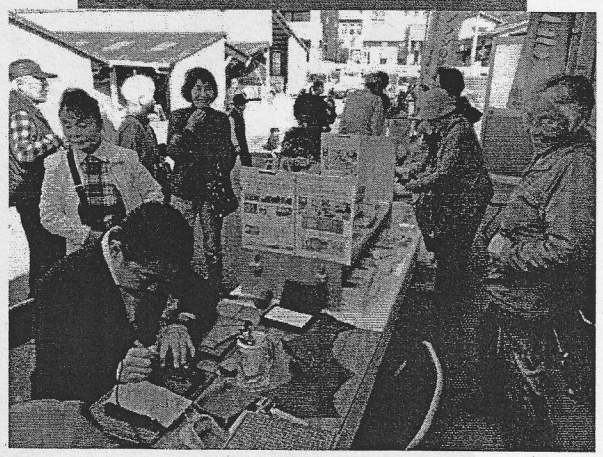


印鑑入れ
（大・中・小）



2019年「黄ニラふれあい祭」での
フリーマーケットに出店





特に深い感謝を捧げます

■岡山市区づくり推進事業（補助事業）

■MATAGIプロジェクト（山口産業さん）

■地元猟友会駆除班（高橋さん）

この冬はみそづくりを
次世代に伝えます

2020年7月23日みそづくり支援チーム結成

みそづくり説明会（10月）

回覧板を見て
約30人が集まった

JA女性部みそ加工所を見学

私の中の「協働」その1

①地域コミュニティにはお金はない

②しかし、知恵と未来はある

③そのキーワードは住民の「協働」